

令和 6 年 4 月 22 日月曜日

13 : 00 から 14 : 00

定期巡回のクローバー

(山科事務所)

令和 6 年度 第 1 回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

介護医療連携推進会議レジメ

参加者：末國氏(勸修学区社会福祉協議会副会長)、長谷川氏(勸修学区老人福祉委員)、鶴飼氏(訪問看護ステーション仁)、前田氏(勸修地域包括支援センター)、小松氏(すばる居宅)、岩原氏(クローバー 2 4 居宅)、星野・立脇・嶋田(クローバー) (順不同) 記録：嶋田

(1) クローバー挨拶・構成員紹介(別紙有り)

- ・資料確認：構成員名簿、周知活動時配布資料(別紙：2 枚)
- ・構成員紹介
- ・クローバー挨拶

代表星野より挨拶

今回の報酬改定は、利益率が高いからという理由であるようだが有料老人ホーム等々の囲い込みが要因ではないかとも言われている。地方では倒産等が考えられ、介護事業者のいない空白地帯が生まれる懸念もある。仕事と親の介護を両立しているビジネスケアラーという言葉も生まれてきているよう。様々な課題の中で醍醐・山科地域で引き続き活動が続けられるよう努めていきたい。

(2) 前回の会議からの事業所の動向

- ・ご利用者の利用状況 (醍醐含む)

R5 年 9 月末	33 件	平均要介護度	3.4
-----------	------	--------	-----

R6 年 3 月末	35 件	(入院 3 名含む)	3.1
-----------	------	------------	-----

山科は開所以来 15 件へ届かない件数で推移している

例年通り、利用者数は増減を繰り返しながら経過している。

今回の報酬改定によって基本単位数は 4%減算となり厳しい状況とはなるが、ケアマネージャー様の立場からすると利用できるサービスの選択肢が少し増えるというメリットにはなると考えている。また、夜間対応型サービスの実施が可能となった。何回随時対応があるか想定出来ない不安があるとケアマネージャーから聞いている。日ごろから定期巡回でオペレーター対応をしているため、訪問の必要性の検討などきめ細やかな配慮が出来ることがクローバーの強みであると考えている。

(前田氏) 以前ケアマネジャーをしていた時にキャビックを利用したことがある。タクシーをされていて近隣を回っている中で訪問するという形だった。

(小松氏) 一回利用したことがある。近隣の事業所が随時訪問は対応されていた。またモニター付きのコールでやり取りをされていた。単位数が高いので利用はしづらい印象がある。夜間から昼への移行はやはり単位数が高いので難しい印象がある。

→一日複数回の訪問が必要となれば、定期巡回が使いやすいと考えている。また毎日帯での訪問も複数事業所で対応が必要となっているため、情報共有を複数社にしなければならぬ事務的負担を考えても、定期巡回にメリットはあると考えている。

○連携訪問

3月末 24件 (医療連携含む)

包括報酬だから訪問看護もたくさん入ってもらえると勘違いされてしまうこともある。単位数に見合わない回数入ってくださっているように見受けるケースもある。排便コントロールなど介護で請け負えることを介護で行い、報酬に即した支援の入り方をご提案していければと思っている。

(鵜飼氏) 要介護1、2で30分未満で週一回(月一回)で赤字にはならない。介護がメインなので内服や身体的な注意点をパソコンを通じて情報収集しながらアドバイスすることで、介護だけで問題ない人は月一回しか行かないケースもある。褥瘡や看取りなど医療ニーズが必要となれば、医療で入るようにしている。

介護保険サービスがいっぱいになるので、医療で週3回入ってくださいとなるよりは定期巡回が良いのではないかと、思う。介護さえあれば家で暮らせる方がたくさんおられるので、うまく使ってもらいたいと思う。

○研修・・・「語る介」対面での実技研修や意見交換の場

「お茶の水ケア学院」を利用したネット研修

本年度はBCPのマニュアルを用いての研修を行う予定。

介護実習室…山科事業所3階に設置し、他の事業所も参加頂いて昨年度、以下の研修を実施した。

- ・救命救急(消防署による研修)
- ・感染症(手洗い研修:訪問看護ステーション仁:鵜飼氏)

他の訪問介護事業所と一緒に勉強会をした。今後も折に触れて他事業所と関わっていこうと思っている。

クローバー24居宅介護支援事業所の状況

2年経ち、2名体制になり大体70名ほどを担当している。相談件数も延べ100件を超え

た。勸修包括等と連携を取りながら地域から色々学ばせてもらっている。

7月から新たに一名追加して3名体制となる。

定期巡回については1割程度の利用となっているが、もう少し割合としては増やせるかと思っている。定期巡回の利用方法について地域にもっと普及させていければと考えている。

(3) 周知活動について(資料 2)

・月1回ずつ醍醐地区と山科地区の居宅に周知活動のため訪問を行っている。
毎月の空き状況のお知らせと共に勉強会の依頼を受け付けるための資料を配付。

・勉強会の申し込みは醍醐で2件あった。

ケアプランセンター 虹（訪問看護と合同で対面）

ケアプランセンター夢眠山科（ZOOM）

福サ協山科（対面）福サ協は醍醐と山科と定期的に勉強会開催の依頼をされる。

訪問看護さんからも「定期巡回で一日何回入ってもらえるの？」というお問い合わせ頂いたりするので都度勉強会のご提案もしている。

・地域での活動

健やか学級参加

醍醐地区・・・池田東学区の健やか学級に前年度に引き続き参加している。

1月・・・脳トレ 3月・・・地域の支え合いゲーム

二年目を迎え参加者の方々からの認知度も上がってきたかと思っている。地域での相談場所としての知って頂くためにも地域の活動に積極的に参加していきたいと思っている。

・NPO 法人地域共生開発機構「ともつく」への参加（別紙有り）

上記の目的から縁あって参加することとなった。

高齢者の就労活動を通じた社会活動、フレイル予防などに取り組まれている。

ツールの一つとして「裂き織」という文化を通じた取り組みについて弊社も協力することとした。こうした活動から災害時のBCPなども繋がっていくのではないかと考えている。

製品にして流通させるということが何もない状態であるが、京都市立芸術大学の生徒さんなど、この間生まれている色んな繋がりですこまで持っていけたらなど色んなことを考えている。

醍醐のコミュニティカフェ「レインボーカフェ」の松井氏にも話を聞いて頂いている。その他ボランティア団体などと一緒に参加してもらえないか模索している。

（長谷川氏）第二土曜日にものづくりをしている。第一は筋トレなど山科は毎週土曜日に何かしらの活動をしている。第四は音楽、包括さんからの健康・介護に関するお話してもらったりしている。花祭りにも参加される。

地域の課題・・・コロナが明けて人は出てきてはいても元にはなかなか戻っていかないのではないかな、と思っているが現状どうか？

山科地区は高齢化率 NO.1 であるが、地域でサービスに繋がることがなく、困っておられる高齢者をどのようにしてサービスに繋げていくかが課題だと考えるがどうか？

（長谷川氏）近隣の緊急通報システムを利用されている方で電話が掛かってきて探しに行ったら救急車を呼んでおられ、迷惑かけたらあかんと思ってと言われる方もいた。人に迷惑かけたらあかん、自分で何とかしなあかん頑張っているものの救急を呼ばれてしまうような方もおられた。

（前田氏）新人のケアマネージャーも訪問介護や看護の一定の理解された 6 月頃くらいに勉強会の広報をしてはと思う。なかなか 24 時間のサービスまでイメージが回らないのが実情だと思うので、そういった情報を定期的に提供されていくのが大切ではないか。

（4）医療との連携、地域の課題

医療との連携・・・議題（2）で実施済み

（5）その他

末國氏より

・今年は勸修学区異動なしと聞いている。学校での取り組みについては詳細決まったら校長に話をしに行くので教えてほしい。

・心肺蘇生法の方法が一部変更となり、感染症の観点から「気道確保が不要」となった。

・振り込め詐欺が依然として問題となっている。係る講習であれば警察署も行きますと言ってくれるので活用頂きたい。

・生協のところの見渡しの良い道路が、農道のため速度測定器が設置されておらず速度超過の車両による交通事故の要因となっている。対面通行がしにくいような工夫など何かしらの対策が必要ではないかと考えている。

・次回開催は令和 6 年 10 月を予定しています。よろしくお願いいたします。

以上